

# 時間をかけてじっくりと

## 岡田知之

TOMOYUKI OKADA

経済学部講師  
愛媛県出身。福岡大学経済学部卒業。  
慶應義塾大学大学院経済学研究科  
修士課程修了、博士課程単位取得退学。  
趣味は散歩。電車を使って通勤してい  
ますが、車窓にうつるのどかな風景に心を癒されています。

## 田舎の生活

みなさんは、これまでどのような学生生活を営んできましたか。大学に入学する以前の学生生活といえば、小学校・中学校・高校での生活をさすことになりますが、大学での生活と小学校・中学校・高校での生活は大きな違いがあるように思います。

私の小学校・中学校・高校での生活を振り返ってみると、当時は常に時間に追われていたような気がします。小学生のころは1学年に2クラスしかないような田舎で生活していました。田舎というとのんびりした印象があるかもしれません、いつでものんびり過ごせるわけではありません。生徒数が少ないので、学校で行われる行事は全員参加が基本でした。学校の行事として、毎学期2から3の行事（例えば市のスポーツ大会や運動会でのプラスバンドなど）があり、そのための準備や練習を行う必要から、高学年になってからは、毎日帰りが午後6時頃だったような気がします。中学生になると、部活動でやはり毎日帰りが遅くなり、高校へ進学した後は、部活動に加え遠距離通学（当時、市内に普通科の高校がなく、片道約1時間かかる隣町の高校へ通っていました。）の為、さらに帰宅が遅くなったと記憶しています。

それに対し、大学生になってからは、有り余る時間を持て余していました。住んでいた場所も大学近くの下宿でしたし、バイトもほどほどにしかやらず、ほとんど何もしないまま、時間だけが過ぎていったように思います。



学びのアイディア  
—こんな風に学んだら!—

## 限られた時間

人によって、多少の差はあるかもしれません、（小）中、高では、自由にできる時間が限られている中で、多くのことを行わなければならないケースが多いような気がします。短時間で多くのことを行うためには、「要領のよさ」が必要となります。（小）中、高では、要領のよさが求められているかもしれません。おそらく、社会人になれば、いっそう要領のよさを求められることになるでしょう。無駄なく、要領よく生活することは、スピードを求められる現代社会では、避けることができないかもしれません。しかし、要領のよさを追求することが、「考える力」や「判断力」だけではなく、「好きなことや興味のあることだけはがんばる！」これでも非常に大きなものが得られます。興味のあることの見つけ方は、矛盾しているようですが、まずは、いろいろなものに対して本気で努力してみることです。

## じっくり考え方！

要領よく物事を進めようとする場合、試行錯誤のプロセスやじっくりと考えることは軽視されがちです。しかし、単に知識を吸収するだけではなく、学習した知識から自分なりの考え方を持つためには、試行錯誤のプロセスやじっくりと考えることはどうしても必要なではないでしょうか。幸いなことに、大学では時間が豊富にあります。みなさんには、豊富にある時間を生かし、時間をかけてじっくりと何かに取り組んでいただきたいと私は思っています。経済学に携わる者としては、できればじっくりと経済学に取り組んでもらいたい気持ちはありますが、別に経済学である必要はありません。何でもよいので、自分の興味のあることに時間をかけて取り組んではいいと願っています。そして、（自分なりの根拠をもち）自分で判断する力を養っていただければと思っています。

大学は、定年後を除けば、時間にゆとりをもてる唯一の場所といっても、言い過ぎではないでしょう。この貴重な大学での生活に悔いが残らないように、「何か」に懸命に取り組んでいただければと思います。

## 今、もし大学1年生の自分に会えるなら、 私に伝えたい5つのこと

潜道文子



※写真中央が潜道先生

私自身が大学1年生だった頃、「どんな風に学ぶか」などということは特に考えていませんでした。しかし、今、思うと、あの時知つていればと思うことも多いです。というわけで、自分の大学生活への反省も込めて、大学1年生の私に伝えたい5つのことをお伝えします。

### 1 一度は本気でがんばってみる

大学では、授業や専攻、所属ゼミ等、多くのことを選択するわけですが、選択の仕方によって、得られるものに違いが出ることもあります。だからといって、すべてに全力投球するというのは現実的ではありません。なぜなら、大学生の生活は、授業だけでなく就職活動やインターンシップ、卒業論文執筆や資格試験の勉強等、かなり忙しいものだからです。したがって、勉強は「選択と集中」の視点が必要です。「好きなことや興味のあることだけはがんばる！」これでも非常に大きなものが得られます。興味のあることの見つけ方は、矛盾しているようですが、まずは、いろいろなものに対し本気で努力してみることです。

### 2 人生のターニングポイントとなる授業

興味のあることを見つける過程で、「人生のターニングポイントとなる授業」に出会うこともあるでしょう。たとえば、その授業がきっかけとなって、更なる勉

強のために大学院へ進む、夢をかなえるために起業家になる、社会問題解決のためにNPOで活動するようになる……。このような授業に出会えたら、自分の進むべき道がすぐ目に広がつくるかもしれません。

### 3 自分で決める

些細なこと（今学期の授業は？）から大きなこと（就職？進学？）まで、自分の人生は、自分で決めなければなりません。意思決定をするというのは、なかなか大変なことです。なぜなら、知識や経験、情報収集能力等が必要だからです。しかし、それはとても「楽しい」ことであります。意思決定能力を持ち、結果に責任をもてるということは「自信」につながり、満足できる結果がでれば「有能力」も感じられます。ですから、最初は大変でも、意思決定能力を養う努力をしてしましよう。

### 4 フットワークのよさと人的ネットワーク

知識を得るのは、授業や本からだけではありません。他の人の話に耳を傾けることによって得られる知識も多いはずです。そのためには、積極的に多くの人々と接觸するフットワークのよさも必要です。人的ネットワークは、人々の人生を歩みやすくなります。しかし、ルールがあります。「ギブ・アンド・テイク」です。テイクだけでなく、他人のために積極的に何かを行



AYAKO SENDO

経済学部助教授  
「経営学総論Ⅰ」、「経営学総論Ⅱ」、「企業論」、「コーポレート・ガバナンス」、「外書講読Ⅰ」、「基礎ゼミ」、「演習Ⅰ」担当。  
専門は「企業と社会」、「企業倫理」、「経営戦略論」。  
好きなもの：おいしい料理、温泉、映画館で見る映画  
好きな街：銀座、乃木坂、函館・大沼、直島  
趣味：現代アート、カウチポテト

